

関係者総意の森林施業の体制づくり (計画的に施業を進めるために)

日野振興センター
農林業振興課 普及担当

日南町の間伐

ほとんどの地域が森林経営計画策定

LVL工場オロチにより搬出間伐が増加

素材生産量(間伐搬出支援事業 H25)

全県のスギ・ヒノキ面積 15%

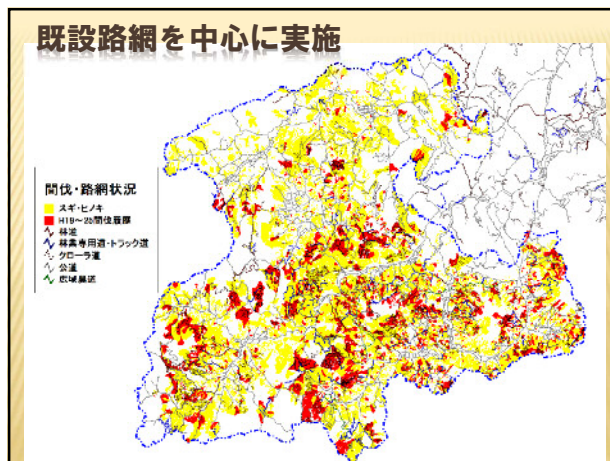
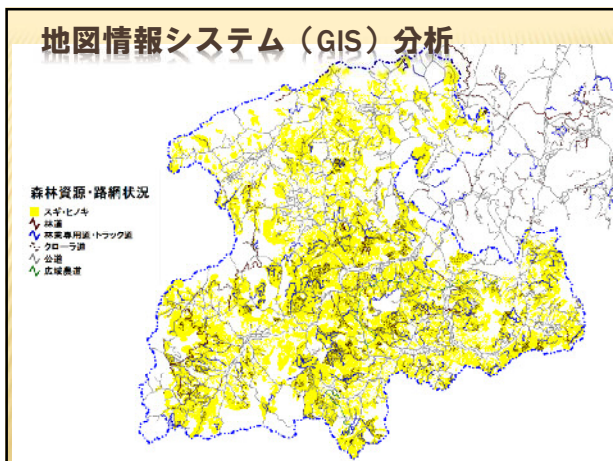
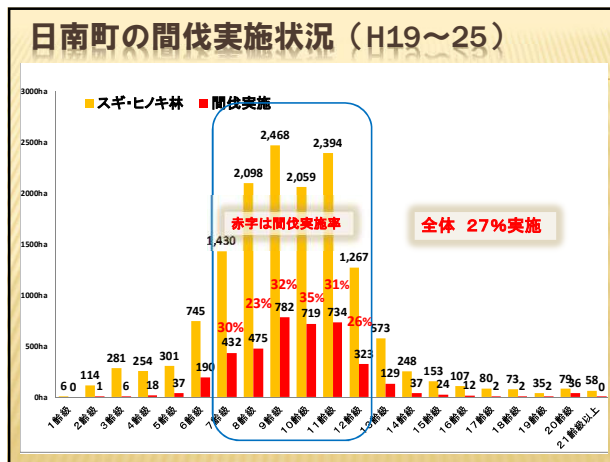
県内の素材生産 37%

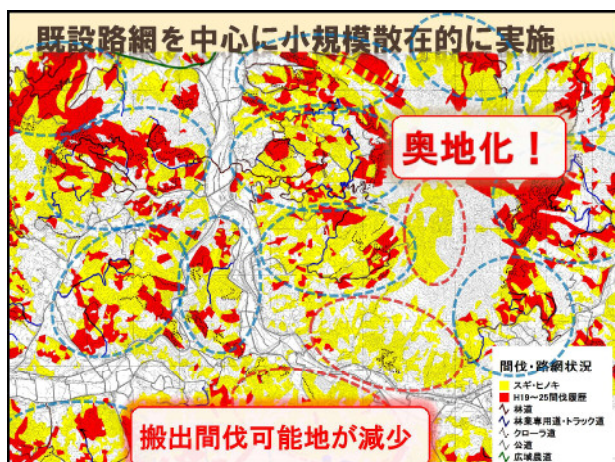
計画的にすすんでいない?

森林資源は数字上は十分にあるが . . .

間伐団地を確保するのがたいへんです。

間伐がどのように行われているのか?





現状認識（これまでの取組）

GISの分析結果を踏まえて、森林組合と現状把握を行った。

○県の認識
搬出間伐対象地は不足しつつある。
路網整備のため路線開設が必要

○森林組合の認識
搬出間伐対象地は十分にある。
既設路網で実施可能

普及内容

①路網
（集約化に必要な路網計画の支援）

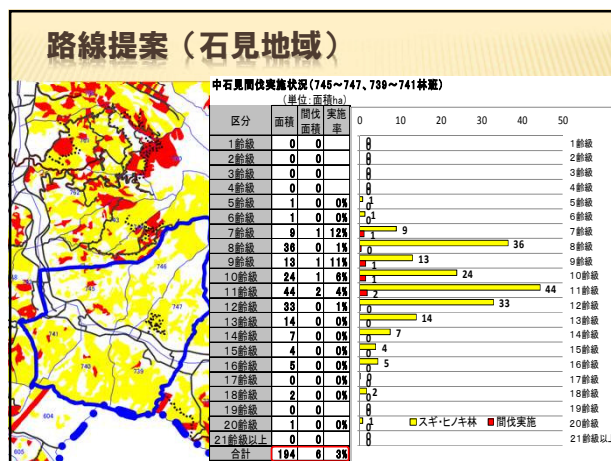
- 路網空白地帯の林業専用道等の提案。（月1回）
- ・森林経営計画5団地、5路線
- 将来性、広域性を考慮した林道の提案。

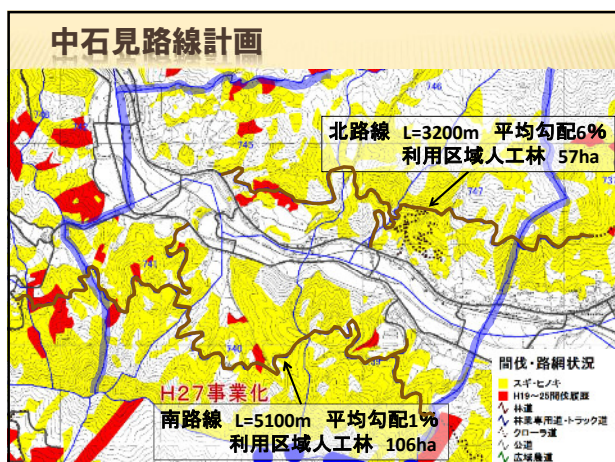
②共有化
（森林整備の体制づくりの支援）

- 計画的な森林施業を実施するための関係者の意見徴集（森林組合、町、素材生産業者など）

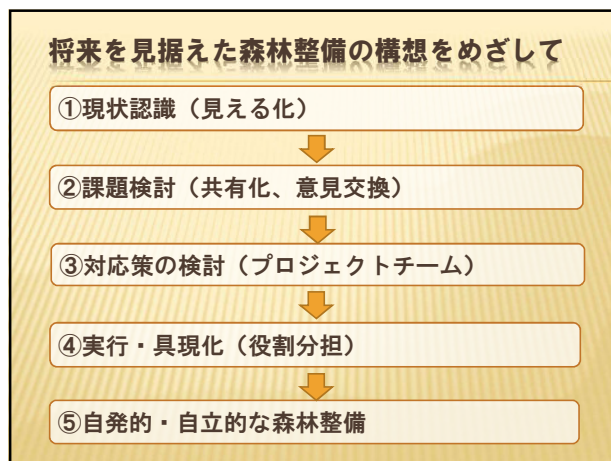
①路網

集約化に必要な路網計画の支援





②共有化 森林整備の体制づくりの支援



日南町との森林情報交換会（12.25）

- 現状認識・共有
 - ・近い将来、間伐だけでは材が不足する！
 - ・町行造林でも一通り間伐が終わってしまった。
 - ・成長量以上の伐採してよいのか？
- ゾーニング
 - 林道
 - 皆伐（林齢構成の平準化）
- 路線計画、施業計画
 - ・実行性のある路線計画、実施に向けた取組の必要性。
 - ・森林組合を加えた協議が必要。

第2回森林情報交換会(町・森林組合・県)

- 現状認識・共有
 - ・やり易い、同じところで施業
- 林業の継続性
 - 法正林（林齢構成の平準化）
 - 皆伐
 - ゾーニング
 - 不在村地主問題
 - 農道利用
 - 林道
- 路網があれば間伐が進んでいく
- ◎路線開設プロジェクトチーム(P.T.)設立
 - ・路線提案(森林組合、県)、支援(町、県)、実行(森林組合)

普及成果

①集約化に必要な路網計画の支援

- 路網空白地帯の林業専用道の提案
 - ・ 2路線（石見、日野上団地）事業化
- トラック走行を前提とした森林作業道モデル
（縦断勾配（14%～）、R=6m、幅員3m、簡易構造物）
 - ・ 1路線（福栄団地）開設予定

②森林整備の体制づくりの支援

- 計画的な施業を実施するための関係者の意見交換
（町、森林組合、県の森林情報意見交換会）
 - ・ 現状認識、危機感の共有
 - ・ 路線開設PT設立

今後について

路線開設PT

- ・ ゾーニング
- ・ 路網計画
- ・ 搬出方法

◎残された課題検討

- 皆伐
 - ・ 法正林（林齢構成の適正化）
 - ・ 再造林促進（植栽・保育支援）
- 不在村地主問題
- 農道利用
 - ・ 補修、林道規格への改良

- ・ 日南町：森林管理
- ・ 日南町森林組合：森林施業プランナー

ご静聴ありがとうございました